

平成29年度～33年度

中津川市母子保健事業計画



平成29年3月

中津川市健康医療課

目 次

I. 母子保健事業計画概要	1
II. 計画の体系	2
III. 現状と課題及び計画の指標と具体的な取り組み	4
IV. 母子保健事業体系	20

*資料集

1. 中津川市母子保健統計	22
2. 妊婦に関するアンケート結果について	26
3. 子育て環境に関するアンケートまとめ	
(1) アンケート集計	27
(2) 健診時おたずね表集計	29
4. 妊婦に関連する資料	
(1) 妊婦の体格と妊娠中の体重管理について	31
(2) 妊娠期の高血圧・尿蛋白・尿糖の異常者と産後の管理	31
(3) 平成 27 年度出生時における母親の妊娠経過中の貧血状況について	32
(4) 平成 27 年度妊婦の喫煙状況	32
(5) 岐阜県 母と子の健康サポート事業利用者状況	32

*参考資料

1. 健やか親子 21 指標及び目標	33
2. 母子保健連絡協議会委員名簿	35

I. 母子保健事業計画(平成 29 年度～平成 33 年度)概要

中津川市の母子保健計画は、平成 9 年度から策定を行い、5 年毎に見直しを行ってきました。平成 22 年度から母子保健計画は中津川市次世代育成支援対策行動計画（平成 22 年度～平成 26 年度）に統合し、平成 27 年 3 月に中津川市子ども・子育て支援事業計画（平成 27 年～31 年度）が策定されました。子どもと子育てを取り巻く施策は、保健、医療、福祉、教育、労働、まちづくりなどあらゆる分野にわたるため、これらの施策の総合的・一体的な推進が必要です。

母子保健は、すべての子どもが健やかに成長していくうえでの、健康づくりの出発点であることから、母子保健事業を推進するための、具体的な行動計画を作成します。

1. 基本理念

すべての子どもが健やかに育つことを目指し「母性を守る」「母親、父親の育児力の向上」「育児しやすい家庭や地域の環境づくり」をすすめて、生涯にわたる健康づくりの活動が継続することを目指します。

2. 目標

- (1) 母子保健におけるライフサイクルの各期を通じて、健康な体づくりができるようになる。
- (2) 妊娠期から子どもの健やかな成長発達を促し、親が安心して産み育てることができるようになる。

3. 骨子

- (1) 安全・安心な妊娠、出産への支援
- (2) 子どもの健やかな成長発達と親が安心して育児ができるための支援
- (3) 思春期からの健康づくりの支援
- (4) 子どもの感染症予防
- (5) 歯と口腔の健康づくりの支援

4. 計画の期間と実施状況評価について

この計画の期間は、平成 29 年度から平成 33 年度までの 5 か年とします。

社会環境や母子保健のニーズ、新たな課題に柔軟に対応するために必要に応じて見直しを行います。

II. 計画の体系

今回の計画では、妊娠期から出産、産後、育児期における切れ目ない支援の充実に取り組み、各事業間や関連機関との連携を強化します。

計画の骨子を具体化するために、計画の骨子の下に基本方針、その下に事業を設定し、計画の体系化を図りました。

骨子1 安全・安心な妊娠、出産への支援

■ 基本方針1-1 ■ 妊娠中から母子の健康を守ります

- 事業1-1-1 妊婦健康診査の充実
- 事業1-1-2 妊婦の体の変化、胎児の成長についての学習と個別支援の充実
- 事業1-1-3 妊婦の食・生活習慣に関する学習の充実
- 事業1-1-4 夫婦での禁煙指導の実施

■ 基本方針1-2 ■ 産後の母の健康を守ります

- 事業1-2-1 妊婦健診結果から生活習慣病を予防する
- 事業1-2-2 再喫煙防止のための指導の実施

■ 基本方針1-3 ■ 妊娠期から産後まで安心して過ごせるよう支援します

- 事業1-3-1 要支援妊産婦の相談、訪問の実施
- 事業1-3-2 関係機関との連携強化

■ 基本方針1-4 ■ 妊娠を望む夫婦へ支援します

- 事業1-4-1 不妊治療費助成事業

■ 基本方針1-5 ■ 親となる心がまえを育てます

- 事業1-5-1 母性・父性の学習の場づくり

骨子2 子どもの健やかな成長発達と、親が安心して育児ができるための支援

■ 基本方針2-1 ■ 安心して保護者が育児できるよう支援します

- 事業2-1-1 成長発達のメカニズムと育児方法に関する理解の促進
- 事業2-1-2 子どもの心身の成長に必要な“食”に関する学習の充実
- 事業2-1-3 子育ての不安や悩みに対する相談体制の充実

■ 基本方針2-2 ■ 子どもが健やかに成長発達できるよう、心身の異常の早期発見に努めます

- 事業2-2-1 健診精度の向上
- 事業2-2-2 医療機関との円滑な連携

■ 基本方針2-3 ■ 虐待を予防します

- 事業2-3-1 虐待の早期発見への体制づくり
- 事業2-3-2 関係機関との連携強化

■ 基本方針2-4 ■ 障がい児の発達を支援します

- 事業2-4-1 0歳児からの途切れの無い支援体制の確立
- 事業2-4-2 発達支援を要する子どもに関する連携体制の充実

骨子3 思春期からの健康づくりの支援

■ 基本方針3-1 ■ 子どものころから生活習慣病を予防します

- ― 事業3-1-1 学校健診結果について養護教諭等と連携
- ― 事業3-1-2 栄養教諭・学校栄養士と連携し食育を推進

■ 基本方針3-2 ■ たばこ・お酒についての知識を普及します

- ― 事業3-2-1 学校における防煙、飲酒防止教育の取り組みの支援、連携

■ 基本方針3-3 ■ 命の教育実施に協力します

- ― 事業3-3-1 性に関する知識獲得への協力
- ― 事業3-3-2 教育委員会、小中学校との連携

骨子4 子どもの感染症予防

■ 基本方針4-1 ■ 定期予防接種の接種率を高めます

- ― 事業4-1-1 接種勧奨、指導、相談の実施
- ― 事業4-1-2 受けやすい予防接種体制づくり

■ 基本方針4-2 ■ 感染症予防について情報提供を行います

- ― 事業4-2-1 感染症予防に努める

骨子5 歯と口腔の健康づくりの支援

■ 基本方針5-1 ■ 妊娠中から母子の歯の健康を守ります

- ― 事業5-1-1 妊婦歯科健診の充実
- ― 事業5-1-2 妊娠中から継続した歯科保健指導の実施

■ 基本方針5-2 ■ 幼児期のむし歯予防と口腔機能の獲得を支援します

- ― 事業5-2-1 幼児期の歯科保健指導の充実
- ― 事業5-2-2 むし歯発症リスクの高い子どもや障がい児への指導の充実
- ― 事業5-2-3 口腔機能の発達支援

■ 基本方針5-3 ■ 学童期、思春期の歯科保健活動を支援します

- ― 事業5-3-1 学校の歯科保健学習・指導の充実

Ⅲ. 現状と課題及び計画の指標と具体的な取り組み

骨子1 安全・安心な妊娠、出産への支援

	現状と課題	目指す姿(小目標)
	<p>■妊婦の健康状態と新生児に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度統計より、2500g未満の低出生体重児の出生割合は全出生児の10.0% (58人) で、国9.5%、県8.7%と比較すると高い割合であった。[資料集 p 22-1-(2)] 妊娠中に高血圧状態が確認された妊婦のうち、40.0%が低出生体重児を出産している。[資料集 p 31-4-(2)-1] 平成27年度、妊娠中の体重増加が適正以下の場合、妊娠前の体格指数 (BMI) が低体重では21.7%、標準体重では13.3%が低出生体重児を出産している。[資料集 p 31-4-(1)-2] <p>【課題】 低出生体重児の出生要因はさまざまであるが、妊婦自身が妊娠に伴う体の変化や胎児の成長を知り健康管理ができるよう妊娠中の栄養や生活について指導を行う必要がある。</p>	<p>妊娠中から自身の健康状態に関心を持ち、妊娠による体の変化(妊婦健診結果)と胎児の成長について理解し、健康な子どもを産み育てるために望ましい生活習慣を送ることができる。</p>
<p>基本方針1・1 妊娠中から母子の健康を守ります</p>	<ul style="list-style-type: none"> 妊婦教室参加者のアンケート結果から食生活や栄養面で心配や不安なことがある妊婦は19.7%いる。[資料集 p 26-2-(1)-1] また、調理実習への参加希望は54.9%と半数あり「味付け」や「調理技術」の習得の機会を望む声が多い。[資料集 p 26-2-(1)-4] 妊娠期の貧血の状況から妊娠期間中にHb10.9g/dl以下となる妊婦は251人 (43.0%) で、妊娠後期に貧血であった妊婦が224人 (37.9%) であった。また、妊娠初期から貧血であった妊婦は第1子妊婦が10人 (1.7%) と第2、3子以降の妊婦より多い。[資料集 p 32-4-(3)] 生活リズムについては起床時刻は午前7時前が66.2%、就寝時刻が午後11時前が46.5%であった。[資料集 p 26-2-(2)-1, 2)] <p>【課題】 妊娠期の食生活リズムは胎児の成長や母体へ影響が出るため、妊娠期の食事・栄養の摂り方を妊娠初期から指導する必要がある。また、妊娠期の調理方法や食事への不安解消のため、調理実習も継続して実施していく必要がある。</p>	<p>妊娠期間中に望ましい食生活習慣を身につけ、貧血、妊娠高血圧症候群、妊娠性糖尿病等を予防し、安全安心な出産ができる。また母子ともに生涯にわたり健康で過ごすための食生活を理解できる。</p>
	<p>■妊婦とその家族の喫煙状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度母子手帳交付時に喫煙ありの妊婦は16人 (2.7%) で、その夫10人 (62.5%) が喫煙者である。[資料集 p 32-4-(4)] 平成27年度母子健康手帳交付時、夫の喫煙率は38.5%であった。[資料集 p 32-4-(4)] <p>【課題】 喫煙妊婦の指導には家族の協力も必要なので、夫を含めた家族単位での指導が必要。また妊婦自身が喫煙しなくても、夫の喫煙による受動喫煙が問題となるので、夫に対する指導を実施する必要がある。</p>	<p>タバコによる胎児や子どもへの影響を理解し、受動喫煙を防ぐ行動がとれる。</p>

項目	指標		具体的な取り組み
	現状	目標	
1) 低出生体重児の出生割合 2) 妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、慢性腎臓病について妊娠中に説明を行う 3) 妊娠中の体重増加が「適正」である妊婦の割合	10.0% 実施 55.6%	9.0% 継続実施 65.0%	<p>事業1-1-1 妊婦健康診査の充実</p> <p>①母子健康手帳交付時、妊婦健康診査受診票を交付する。妊婦受診票の内容充実を図り、14枚発行を継続する。発行時に健診内容、受診の必要性、受診時期について説明を行う。</p> <p>事業1-1-2 妊婦の体の変化、胎児の成長についての学習と個別支援の充実</p> <p>①母子健康手帳交付時に妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、慢性腎臓病の資料をもとに説明を行う。また、妊娠中の体の変化、胎児の成長について「すくすく帳」で説明する。体重管理については非妊娠時の体格指数毎に体重増加グラフ表を利用し個別に指導を行う。食事のバランス、食べる量の目安について指導を行う。</p> <p>②妊婦教室を前期・後期で実施する。栄養士、助産師、保健師といった多職種が関わり母体・胎児の視点から妊娠期の健康管理について学習する。産後の育児がイメージできるよう「すくすく帳」を使用し説明する。また、妊婦個々の悩みや不安に応じて多職種による個別相談を実施する。</p>
1) 母子手帳交付時に一日に摂りたい食品の目安量の説明を行う 2) 妊娠期間中にHb10.9g/dl以下となる妊婦	実施 43.0%	継続実施 減少	<p>事業1-1-3 妊婦の食・生活習慣に関する学習の充実</p> <p>①母子健康手帳交付時に生活リズムや栄養学習・相談を継続して行う。</p> <p>②妊婦教室時の栄養学習、個別栄養相談を充実する。必要に応じ継続して個別栄養指導を行う。個々の体格に応じた食事量を算出し自分に合った量を確認する。</p> <p>③妊婦調理実習 (マタニティクッキング) を実施し、妊娠期に必要な栄養素についての学習や調理実習を行う。また、妊婦同士が交流をすることで食や食に留まらず妊娠期の不安が解消されるよう支援する。</p> <p>④妊娠中の望ましい食生活について『日本人の食事摂取基準』に基づき作成した資料を用いて指導を行う。</p>
1) 妊娠中の妊婦の喫煙率 2) 母子手帳交付時の夫の喫煙率	2.7% 38.5%	0.0% 30.0%	<p>事業1-1-4 夫婦での禁煙指導の実施</p> <p>①母子健康手帳交付時、チラシを使用して胎児・子どもへのタバコの害、タバコのやめ方を指導する。</p> <p>②母子健康手帳交付時に喫煙ありと答えた妊婦に禁煙支援を行う。</p> <p>③両親への禁煙指導としてパパママ教室 (初産妊婦とその夫の教室) でタバコの害、やめ方に関する学習を行う。</p>

	現状と課題	目指す姿(小目標)
基本方針1・2 産後の母の健康を守ります	<p>■妊娠期の生活習慣病の状態</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度妊娠高血圧症候群の妊婦は10人（1.6%）で、全員の経過を把握できている。〔資料集 p 31-4-(2)-1)-②〕 産後の継続尿糖陽性者はその後の受診状況の確認が行えているが、尿蛋白異常者については産後の状況把握や受診勧奨が十分にできていない。〔資料集 p 31-4-(2)-2), 3〕 <p>【課題】 妊娠に伴う高血圧症候群、尿糖や尿蛋白等の検尿異常などは将来の生活習慣病リスクとなる。適切な受診勧奨、生活習慣に関する指導が必要である。</p> <p>■産婦の喫煙状況</p> <ul style="list-style-type: none"> たばこを吸っていたがやめた母は130人（22.0%）で、うち今回の妊娠を機にやめた母が67人（11.3%）であった。3ヶ月児健診でたばこを吸っている母は6.6%であった。 各乳幼児健診時のアンケート調査より、育児期間中の父親の喫煙率は38.6%であった。 <p>【課題】 受動喫煙による健康被害の予防と母親の生活習慣病予防のために再喫煙防止の支援が、産後早期から必要である。</p>	<p>産後の健康状態に応じて適切な医療機関受診ができ、自身の健康状態について理解し、望ましい生活習慣を送る事ができる。</p> <p>妊娠をきっかけに禁煙した妊婦とその家族が子どもの受動喫煙の害について理解し、母親の再喫煙を防ぐことができる。</p>
基本方針1・3 「こせるよう」支援します 産後まで安心して過	<p>■妊娠期からの養育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度の母と子の健康サポート支援事業において養育者側で早期に支援の必要者が14人（53.8%）であった。〔資料集 p 32-4-(5)〕 平成27年度母子手帳交付者で若年妊婦は8人（1.3%）、40歳代初産婦は10人（1.7%）であった。 平成27年度母子手帳交付者で多胎妊婦は7人（1.2%）であった。 <p>【課題】 母親が妊娠期からひとりで悩みを抱えていたり、産前産後の心身の不調や養育環境の問題などは育児不安の増強や虐待リスクが高まる心配がある。育児支援に関する情報提供や、妊娠期から養育支援を特に必要とする家庭の把握と継続的な支援を行う必要がある。</p>	<p>個別性のある指導、支援により妊娠期から出産、産後まで安心して健康に過ごすことができる。</p>
基本方針1・4 支援し妊娠する	<p>■不妊治療に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度特定不妊治療費助成事業の実績は県助成申請81件、中津川市助成79件、うち妊娠成立20件であった。 特定不妊治療費は1件当たり平均35万円、一般不妊治療は1回当たり2万円ほど費用がかかり経済的にも精神的にも負担が大きい。 <p>【課題】 不妊治療について、経済的支援を行う必要がある。</p>	<p>不妊治療は、治療費が高額であり治療に要する費用の一部を助成することにより、その経済的負担の軽減を図る。</p>
基本方針1・5 育てます	<p>■父親の育児参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 3か月児健診のアンケートから父親が育児の相談相手、精神的な支えになっていると答えた母親は92.9%、父親の育児参加に満足している母親は73.4%であった。 <p>【課題】 父親の育児参加が増えており、父親の育児に関する学習や交流の場が必要である。</p>	<p>妊娠中から、子どもを健やかに生み育てるための父母としての心構えを持てる。</p>

指標			具体的な取り組み
項目	現状	目標	
1)産後に高血圧及び尿蛋白陽性が継続する者で適切な受診ができる者の割合	90.0%	95.0%	<p>事業1-2-1妊婦健診結果から生活習慣病を予防する</p> <p>①母子手帳から妊娠中の健康状態の実態把握を行う。</p> <p>②産後、新生児訪問時や3か月児健診で対象者を把握し、妊娠高血圧、妊娠糖尿病、慢性腎臓病のフォローマニュアルに添って継続支援を行う。</p> <p>③該当者に尿検査、血圧測定を実施し必要に応じ受診勧奨を行う。</p> <p>④高血圧、尿蛋白、尿糖等将来の生活習慣病リスクを有する者を対象に、将来の生活習慣病予防のため必要に応じ家族を含めた指導を行う。</p> <p>事業1-2-2 再喫煙防止のための指導の実施</p> <p>①母子健康手帳交付時、乳幼児健診時に親、家族の喫煙状況を把握する。喫煙ありの母親、妊娠をきっかけに禁煙した母親に対して、赤ちゃん訪問実施時に状況を確認し、指導マニュアルを利用して指導を行う。その後は乳幼児健診等で喫煙状況を把握し継続して声をかける。</p> <p>②母子手帳交付時にチラシを使用し、家族の喫煙が子どもの発育に影響を及ぼすことを指導する。</p> <p>③家族に喫煙者がいる場合、家族の禁煙支援を行う。禁煙外来・禁煙支援薬局等の禁煙方法を紹介する。</p>
2)高血圧、尿蛋白、尿糖陽性など生活習慣病ハイリスク者の生活指導を実施	実施	継続実施	
1)タバコを吸っていた妊婦の再喫煙率	6.6%	0.0%	<p>事業1-3-1 要支援妊産婦の相談、訪問の実施</p> <p>①母子健康手帳交付時に対象把握に努め、要支援妊婦に対し地区担当保健師が主となり個別支援を継続的に行う。</p> <p>②母と子の健康サポート支援事業等、医療機関からの情報提供があった場合は、要支援妊産婦に対し、地区の保健師が主となり個別支援を継続的に行い、必要に応じ関係機関と連携を図る。</p> <p>③特定妊婦のアセスメントを含めフォローマニュアルを作成し継続的な支援を行う。</p> <p>④妊産婦の育児不安に対して、子育て支援センターの紹介等情報提供を行う。</p> <p>⑤多胎妊婦や家族に、子育て支援センター主催の双子の会など、多胎児ネットワークグループを紹介する。東濃・恵那保健所、東濃5市共催の多胎児ネットワークグループ（多胎児の親のグループ）産前教室に保健師が協力参加する。</p> <p>事業1-3-2 関係機関との連携強化</p> <p>①産科医療機関や福祉相談室等、関係機関と随時情報共有を行う。</p>
2)妊娠をきっかけに禁煙した妊婦に3か月児健診時指導を実施	実施	継続実施	
1)特定不妊治療費助成事務を円滑に遂行	実施	継続実施	<p>事業1-4-1 不妊治療費助成事業</p> <p>①不妊治療のうち体外受精、顕微授精について中津川市特定不妊治療費助成事業要綱に基づき費用の一部助成を行う。1回10万円を限度に助成回数を最大6回まで行う。</p> <p>②不妊治療のうち人工授精について中津川市一般不妊治療（人工授精）助成事業実施要綱に基づき費用の一部助成を行う。助成期間は補助開始月から継続する2年間まで助成する（1年度につき上限5万円）。</p>
2)一般不妊治療助成事業を円滑に遂行	実施	継続実施	
1)夫が育児の相談相手である割合	92.9%	95.0%	<p>事業1-5-1 母性・父性の学習の場づくり</p> <p>①母子健康手帳交付時に父親対象に父子手帳を交付する。手帳の活用について指導を行う。</p> <p>②パパママ教室を第1子出産予定の夫婦を対象に年6回健康福祉会館で実施する。親になるための心構え、父親の育児体験・妊婦体験、禁煙とアルコールに関する教育を生涯学習課の協力を得て実施する。</p>
2)パパママ教室参加率	40.7%	50.0%	

骨子2 子どもの健やかな成長発達への支援

	現状と課題	目指す姿(小目標)	指標			具体的な取り組み
			項目	現状	目標	
基本方針2・1 安心して保護者が育児できるよう支援します	<p>■年齢に応じた発達、子育てについての保護者の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の生活リズムを見ると早寝、早起きをする子どもが増えてきている。午前8時以降に起きる子どもは5.6%と変化がなかったが、午前6時台に起きる子どもは53.1%と増えている。午後10時以降に寝る子どもは6.9%と減少した。 [資料集 p 28-3-(1)-2)-①, ②] ・幼児にテレビを見せる時間は、1日3時間以上見せているが8.6%と減少している。 [資料集 p 28-3-(1)-2)-⑤] ・成長発達のメカニズムと育児方法の学習は、各乳幼児健診や相談等において集団指導や個別相談にて実施。生活リズムは、各健診の集団指導資料にも掲載し説明しているため、改善している。 ・子育てや子どもとの接し方が分からず落ち込んでしまうことがある親の割合は、3か月児28.0%、1歳6か月児38.1%、3歳児41.1%であった。 [資料集 p 27-3-(1)-1)-⑤] <p>【課題】 生活リズムは早寝、早起きの傾向が進んでいるが、各年齢で繰り返し伝えていくことが必要である。 子どもとの接し方が分からず落ちこむ保護者は増加傾向にあり、保護者自身が子どもの発達を理解することで不安を解消したり、育児方法を選択できるような支援を今後も継続する必要がある。</p>	<p>保護者自身が子どもの発達のメカニズムを理解し、月齢にあった関わりや育児方法を理解することで、安心して子育てができる。</p>	<p>1) 午前8時以降に起きる児 午後10時以降に寝る児</p> <p>2) 3時間以上テレビを見せている割合</p> <p>3) 子育てや子どもとの接し方が分からず落ち込んでしまうことがある親の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3か月児健診 ・1歳6か月児健診 ・3歳児健診 	<p>5.6%</p> <p>6.9%</p> <p>8.6%</p> <p>28.0%</p> <p>38.1%</p> <p>41.1%</p>	<p>減少</p> <p>減少</p> <p>減少</p> <p>減少</p> <p>減少</p> <p>減少</p>	<p>事業2-1-1 成長発達のメカニズムと育児方法に関する理解の促進</p> <p>①乳幼児健診、相談等各事業において保護者の集団学習を継続的に実施する。</p> <p>②脳や体の発達のメカニズムに基づき子どもの成長発達過程、関わり方や育児方法が分かる資料(すくすく帳)を配布し活用する。</p>
	<p>■乳幼児の食に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6か月児相談で、栄養のことで心配なことや相談したいことがある割合は31.8%であった。 ・乳幼児なんでも相談で栄養相談した1歳未満の児の割合は44.0%であった。 ・3歳児健診で朝食を食べないことがある子どもの割合は7.0%で、朝食を食べないことがある親の割合は12.7%であった。親と子の欠食の関連をみると、食べない子12人の内7人は親も食べないことがあると回答しており、親の生活が子どもに影響を与えている。 [資料集 p 28-3-(2)-2)-③, ④] ・幼児期の食事で困っていると回答した親の割合は、70.6%であった。 [資料集 p 29-3-(2)-1)-①] ・ジュースなどの甘い飲み物をよく飲ませる割合は、年齢が上がるにつれ割合が増える傾向にあり、3歳児では43.3%であった。 [資料集 p 29-3-(2)-1)-③] ・平成27年度から、3歳児健診で尿中塩分濃度の測定を実施した。推定一日塩分摂取基準量を超える5g以上が129人(24.6%)であった。 <p>【課題】 乳児期の栄養面については31.8%の親が心配があり相談したいと答えており、健診や相談での指導を強化していく必要がある。 3歳児の尿中塩分濃度の測定を実施し、将来の生活習慣病予防のため、子どもの頃から薄味にするよう指導していくことが必要である。</p>	<p>乳幼児期から安定した生活リズムの中で適切な食事のとりかたや望ましい食習慣の定着、食を通じた豊かな人間性を育む。</p>	<p>1) 栄養のことで心配なこと 相談したいことがある割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6か月児 <p>2) 子どもが朝食を食べないことがある割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳6か月児 ・3歳児 <p>3) ジュースなど甘い飲み物をよく飲ませる割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳児 ・1歳6か月児 ・3歳児 <p>4) 3歳児尿中塩分濃度推定一日塩分摂取量5g以上</p>	<p>31.8%</p> <p>0.7%</p> <p>7.0%</p> <p>9.2%</p> <p>37.2%</p> <p>43.3%</p> <p>24.6%</p>	<p>減少</p> <p>0.0%</p> <p>0.0%</p> <p>減少</p> <p>減少</p> <p>減少</p> <p>減少</p>	<p>事業2-1-2 子どもの心身の成長に必要な“食”に関する学習の充実</p> <p>①6か月児相談、1歳児相談に個別栄養指導を取り入れ学習の場の充実を図る。</p> <p>②6か月児相談後のフォローとして、9・10か月児相談、運動・栄養相談等の個別相談を継続して実施する。</p> <p>③個別栄養相談を充実させ、適切な時期に個別性を重視した離乳食、幼児食の指導を実施する。</p> <p>④子どもの成長、発達段階に応じた栄養の資料を作成し指導に役立てる。</p>

	現状と課題	目指す姿(小目標)
基本方針2・1 安心して保護者が育児できるよう	<p>■子育ての不安や悩みに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児に自信が持てない保護者の割合は、3か月児41.4%、1歳6か月児51.0%、3歳児51.2%であった。[資料集 p 27-3-(1)-1)-①] ・ゆったりした気分で子どもと過ごせる時間がある保護者の割合は、3か月児82.9%、1歳6か月児76.0%、3歳児59.6%であり、年齢が高くなるにつれて保護者の余裕もなくなっていることがわかる。[資料集 p 27-3-(1)-1)-②] ・生後3か月までの乳児がいる家庭への保健師等による全戸訪問事業(こんには赤ちゃん事業)を実施。訪問実施率は平成27年度96.8%であった。 ・未満児保育入所児は、平成24年度453人(23.1%)から平成27年度464人(27.0%)と増加している。未満児保育園数も16園から18園と増え、子育てと仕事を両立する親が増えている。 <p>【課題】 育児不安や悩みをもつ保護者は増加傾向にあり、育児に自信が持てない保護者が増加していることから、産後早期からの不安解消への支援が必要である。子どもの成長発達には個性が高く、悩みにあった相談ができる場の周知も必要である。</p>	<p>育児についての不安や悩みを持つ保護者がタイムリーに相談できる場を持ち、解消できる。</p>
基本方針2・2 心身の異常の早期発見に努めます	<p>■乳幼児の健診結果状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健診未受診者に対して、受診勧奨はがきの送付、地区担当保健師の電話連絡や訪問等で対応。未受診者を全数把握する体制があり、他部署、他機関との情報提供もできている。今後も引き続き状況把握や追跡等の対応の強化が必要である。 ・精密検査結果は医療機関からの「乳幼児健診結果連絡票」を使用し、円滑な連携を目指すと共に、確実な受診確認および必要に応じて指導を実施している。乳幼児健診結果連絡票が活用されたこともあり、精密検査受診率は3か月児94.4%、1歳6か月児、3歳児健診で100.0%となった。今後も健診の制度管理や異常の早期発見、対応への体制づくりを強化する。[資料集 p 23-1-(6)] ・3歳児健診の尿検査再検査実施率は再検査者リストを作成し、尿検査をしていない児がひと目で把握できるようにしている。また年度末には勧奨はがきを送付し提出の呼びかけをしたことで受診率も高くなっている。今後、未提出のまま入園した場合は、園での尿検査結果を保護者に電話で確認することで結果に反映していく。[資料集 p 23-1-(7)] <p>【課題】 子どもの健やかな成長発達のためには異常の早期発見、早期治療が不可欠であり、健診精度の向上と共に、健診後のより確実なフォローが重要である。また、医療機関等との円滑な連携も必要である。</p>	<p>乳幼児健診において要医療及び要精検の判定のあった子どもが、適切な医療機関受診等ができることにより、健やかな成長発達が保障される。</p>

指標			具体的な取り組み
項目	現状	目標	
<p>1) 育児に自信が持てないことがある保護者の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3か月児健診 ・1歳6か月児健診 ・3歳児健診 <p>2) ゆったりした気分で子どもと過ごせる時間がある保護者の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3か月児健診 ・1歳6か月児健診 ・3歳児健診 	<p>41.4%</p> <p>51.0%</p> <p>51.2%</p> <p>82.9%</p> <p>76.0%</p> <p>59.6%</p>	<p>減少</p> <p>減少</p> <p>減少</p> <p>増加</p> <p>増加</p> <p>増加</p>	<p>事業2-1-3 子育ての不安や悩みに対する相談体制の充実</p> <p>①母子健康手帳交付や妊婦教室の際に安心子育てガイドや子育てに関する情報サイト「子育てマイページ」等を用い、産後早期からの相談先、相談機関の周知を行う。</p> <p>②個別性に応じた相談(運動発達相談、幼児相談など)を継続して実施する。</p> <p>③乳幼児なんでも相談を各地区に出向き実施し、今後も継続して来所しやすい相談の機会を提供をする。</p> <p>④こんには赤ちゃん事業の訪問は保健師等による全戸訪問を継続して実施する。</p> <p>⑤未満児保育園に通う親への相談体制と園との連携を強化していく。</p>
<p>1) 乳幼児健診受診率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3か月児健診 ・1歳6か月児健診 ・3歳児健診 <p>2) 乳幼児健診精密検査受診率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3か月児健診 ・1歳6か月児健診 ・3歳児健診 <p>3) 3歳児健診尿検査再検査実施率</p>	<p>98.9%</p> <p>97.6%</p> <p>98.5%</p> <p>94.4%</p> <p>100.0%</p> <p>100.0%</p> <p>97.6%</p>	<p>維持</p> <p>維持</p> <p>維持</p> <p>100%</p> <p>100%</p> <p>100%</p> <p>100%</p>	<p>事業2-2-1 健診精度の向上</p> <p>①健診未受診者への電話・訪問等での確認をする。</p> <p>②乳幼児健診の要精検、要医療に対する受診勧奨を徹底する。</p> <p>③乳幼児健診の要観察者への訪問、電話確認等フォローを徹底する。</p> <p>④乳幼児健診における低身長・低体重、頭囲等と3歳児健診の検尿の要観察児に対しフォローマニュアルを活用し、確実なフォローを行う。</p> <p>事業2-2-2 医療機関との円滑な連携</p> <p>①継続して保護者の同意のもと「乳幼児健診結果連絡票」を使用し、医療機関との連携を図る。</p>

	現状と課題	目指す姿(小目標)
基本方針2・3 虐待を予防します	<p>■虐待に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 感情的に叩いたことがある、感情的な言葉で怒鳴ったことがあるなどの親の割合は、3か月児6.3%、1歳6か月児39.0%、3歳児46.9%と年齢とともに高くなっている。 [資料集 p 27-3-(1)-③] 平成27年度、東濃こども相談センターに通告のあった虐待件数は20件であった。ネグレクト件数が虐待件数の半数を占めているため、引き続き対策が必要である。 3か月児において乳幼児揺さぶれ症候群について知っている親の割合は96.2%であり、乳幼児ゆさぶられ症候群について理解している親が多いことがわかる。 [資料集 p 27-3-(1)-④] <p>【課題】</p> <p>6か月児以降の健診アンケートでは、児の年齢が高くなるにつれ、しつけや関わり方など、悩みを持つ親が増えており対応が必要である。 虐待が子どもの生命及び情緒や人格、対人関係、認知発達などに与える影響は大きく、できるだけ早期に発見し対応するため、リスクの把握と共に子どもを取り巻く各関係機関との連携が必要である。また、保護者を虐待に追い込むことがないように、相談場所や育児支援サービスの周知の強化をする必要がある。</p>	<p>子育て中の保護者が悩みや不安を相談出来る場を持ち、必要な育児支援サービスを利用することができる。</p> <p>課題を抱える親子が地域から孤立することなく、子どもを取り巻く関係機関によって発見され、支援を受けることができる。</p>
基本方針2・4 障がい児の発達を支援します	<p>■障がい児の支援体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度末現在では療育手帳を有する5歳までの子どもは20人、身体障害者手帳を有する5歳までの子どもは10人である。対象者の状況把握や支援方法は地区担当保健師の判断にとどまることが多い。 平成27年度あそびの教室通所児のうち、幼児相談を41人が受け、療育に17人(42.0%)がつながっている。 発達支援センター通所児数は平成27年度157人うち、障がい区別として発達障がい(疑い含む)での通所95人(60.5%)であった。 <p>【課題】</p> <p>健やかな成長発達のためには、発達支援に関わる関係機関が連携し、乳幼児期から就学後まで途切れのない支援を行うことが大切である。</p>	<p>障がいや疾患を持つ子どもや、発達に支援を要する子ども及びその保護者が、乳幼児期から途切れのない支援を受けることができる。</p>

項目	指標		具体的な取り組み
	現状	目標	
1) 感情的に叩いたことがある、感情的な言葉で怒鳴ったことがある親の割合 ・3か月児健診 ・1歳6か月児健診 ・3歳児健診 2) 3か月児において乳幼児揺さぶられ症候群について知っている親の割合 3) こんには赤ちゃん事業実施率	6.3% 39.0% 46.9% 96.2% 96.8%	減少 減少 減少 増加 増加	<p>事業2-3-1 虐待の早期発見への体制づくり</p> <p>①保健師等によるこんには赤ちゃん事業を継続して実施する。訪問未実施者及び、要フォロー家庭への保健師による全数訪問を徹底する。</p> <p>②乳幼児健診未受診者への訪問等対面による安全確認を徹底して行う。</p> <p>③母子健康手帳交付時に身体的、精神的、経済的なリスクのある家庭を把握する。出生届出書にてリスクとなりうる早産、低出生体重等を把握し、早期訪問を実施する。乳幼児健診・相談では診察、問診、相談内容、母子関係等からのリスクの把握を行い、関係機関との連携のもと、地区担当が中心となり支援を実施する。</p> <p>④安心・子育てガイド、市のホームページ等により子育て支援や相談先の利用方法等周知の徹底を図る。</p> <p>事業2-3-2 関係機関との連携強化</p> <p>①福祉相談室等関係課や関係機関と随時情報共有を行う。</p>
1) 発達支援会議で情報共有 2) 療育システムネットワーク会議で情報共有	実施 実施	継続実施 継続実施	<p>事業2-4-1 0歳児からの途切れの無い支援体制の確立</p> <p>①障がいや疾患を持つ子のより良い支援のための台帳作成及び、必要に応じて会議を実施する。発達支援を必要とする子どもの状況把握をし、保護者の子育て支援に役立てる。</p> <p>事業2-4-2 発達支援を要する子どもに関する連携体制の充実</p> <p>①乳幼児健診等で把握した支援を要する子どもについて、発達支援会議、就園検討会、入所連絡会等の機会を通じ、子育て政策室、発達支援センター等各関係機関と情報の共有を行うと共に、支援方法の検討などを行う。</p> <p>②中津川市の療育体制整備のための会議へ参加する。</p>

骨子3 思春期からの健康づくりの支援

	現状と課題	目指す姿(小目標)
基本方針3・1 生活習慣病を予防します 子どものころから	<p>■子どもの学校健診結果状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度学校健診の結果、動脈硬化の危険因子となるLDLコレステロール値が140mg/dl以上であった児童生徒は小学校6年生で19人(2.5%)、中学2年生で16人(2.1%)であった。また、肥満度20以上の児童生徒は小学生男子で130人(5.9%)、小学生女子で103人(5.0%)、中学生男子で100人(8.4%)、中学生女子で76人(6.8%)であった。 平成27年度は生活習慣病予防教育を5校で実施し、小学6年生で10人、中学2年生で15人に個別指導を行った。 <p>【課題】 将来の生活習慣病予防のため、健診の血液検査結果から子ども自身が自分の体の状態を理解し、食生活習慣の改善ができるよう学童期から食を中心とした学習を支援していく。指導を実施していくにあたって学校と連携し、情報共有が必要である。</p>	<p>自分の健康に関心を持ち、食と健康についての知識や技能を習得し、規則正しい生活習慣を確立することで子どものころから生活習慣病を予防する。</p>
基本方針3・2 ついでにの知識を普及します たばこ・お酒に	<p>■学校の防煙、飲酒防止教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 中津川市の未成年者喫煙・飲酒の状況は未把握である。 喫煙については、平成22年度厚生労働科学研究(大井田斑)より、30日間で1日でも喫煙したことのある中学生は男子2.3%、女子1.3%と報告がある。 受動喫煙防止については、H27年度は小学校からの受動喫煙防止ポスター応募数13校、中学校からのポスター応募数6校で、保健所の出前講座(喫煙防止、薬物乱用防止)を受講した中学校は3校であった。参考:市内小学校19校、中学校12校。計31校。 飲酒防止については、平成22年度厚生労働科学研究(大井田斑)より、「30日間で1日でも飲酒したことがある」中学生は男子7.3%、女子26.1%との報告がある。 アルコール依存については、相談を月1回実施している。他での相談も含め、酒害者相談は増加している。 <p>【課題】 喫煙により引き起こされる健康への影響については、がん、循環器疾患、妊娠合併症などがある。健康への影響について、喫煙及び受動喫煙にさらされることがもたらす健康への影響と習慣性について教育委員会と協力しながら子どもの頃からの禁煙と、受動喫煙防止を意識付けていく。 また、適正な飲酒についても未成年のうちから学んでおく必要があるため、教育委員会との連携を継続する。</p>	<p>喫煙と多量飲酒が身体に及ぼす影響について理解し、未成年者の喫煙と飲酒を予防し、成人期からの生活習慣病の予防へつなげる。</p>
基本方針3・3 協力します 命の教育実施に	<p>■命の教育の協力について</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成22年度高校生年齢での妊娠は6件であったが、平成27年度は2件であった。思春期のうちから性について学習し、命の大切さ、いとおしさを体感できる機会を持てるよう、教育委員会と協力して「思春期教室」の学習に取り組んでいる。 少子化の環境の中、身近に乳幼児がおらず、出産後初めて赤ちゃんの世話をする親もいる。生後3か月までの子育てに自信がもてない親は41.4%であった。[資料集 p 27-3-(1)-1)-①] <p>【課題】 今後も健やかな母性・父性を育てるために、また望まない妊娠を避けるために、性について、避妊についての学習を継続していく必要がある。 また、現在教育委員会で行われている思春期教室において、中津川市の妊産婦の現状を踏まえ、「助産師講話」や「乳児との交流」に協力する。</p>	<p>命・性の尊さについて学ぶことにより、子どものころからの健やかな母性・父性を育てる。 望まない妊娠を防ぐ方法を知る。</p>

指標			具体的な取り組み
項目	現状	目標	
1) 養護教諭との打合せ 2) 食育推進会議の開催	実施 年3回	継続実施 継続実施	<p>事業3-1-1 学校健診結果について養護教諭などと連携</p> <p>①養護教諭等と連携し、成人の特定健診結果と児童、生徒の健診データ結果などから地域の健康問題解決のための検討を行う。</p> <p>事業3-1-2 栄養教諭・学校栄養士と連携し食育を推進</p> <p>①保育園、幼稚園、栄養教諭、学校栄養士、農林関係者による食育推進会議を実施し、情報の共有や食育推進体制を検討する。</p> <p>②食育研修会及び食育推進イベントを協働実施する。</p> <p>③学校健診後の生活習慣病予防教育について支援、協力する。</p>
1) 小中学校で防煙、飲酒防止教育に取り組む学校の数	20校	31校	<p>事業3-2-1 学校における防煙、飲酒防止教育の取り組みの支援、連携</p> <p>①命の教育推進会議で妊婦の喫煙、飲酒状況について情報提供を行う。</p> <p>②学校教育課、各養護教諭へ中津川市の喫煙、飲酒に関する情報提供を行う。</p> <p>③防煙教育については恵那保健所、薬剤師会との情報共有を図る。</p> <p>④今後も小中学校へ受動喫煙防止ポスター公募の際に、禁煙、防煙についての啓発チラシを配布する。</p> <p>⑤飲酒防止教育については、今後も東濃断酒会など関係機関と連携していく。</p>
1) 命の教育推進会議で情報共有	全校実施	継続実施	<p>事業3-3-1 性に関する知識獲得への協力</p> <p>①思春期教室で「助産師講話」に協力する。「助産師講話」は中学生を対象に実施する。内容は、命のルーツ(精子と卵子、胎児の成長と母体の変化)、中学生の体づくり(食生活)、避妊(性感染症予防・月経周期の説明)などを実施する。</p> <p>事業3-3-2 教育委員会、小中学校との連携</p> <p>①教育委員会主催の「命の教育推進会議」で母子保健の現状、課題など情報提供し、今後の課題解決について教育委員会、小中学校担当者と情報共有する。</p>

骨子4 子どもの感染症予防

	現状と課題	目指す姿(小目標)
基本方針4-1 接種率を高め、定期予防接種の	<p>■予防接種の現状(平成27年度接種状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度に4種混合、平成25年度にヒブ・小児用肺炎球菌・子宮頸がん予防、平成26年度に水痘、平成28年度にB型肝炎ワクチンが定期予防接種に導入された。三種混合とポリオが一緒になった4種混合導入後は、4種混合が主流になってきている。ヒブ、小児用肺炎球菌、4種混合、水痘の接種率は、年々増加している。[資料集p25-1-(19)] 子宮頸がん予防は、平成25年6月から積極的な接種を推奨していないため、接種率が低い。 <p>■予防接種体制に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度から、集団接種で実施していた日本脳炎・二種混合を個別接種に移行し、現在は、BCG以外は全て個別接種で実施している。 <p>【課題】</p> <p>乳幼児期に接種する予防接種は、保護者の関心も高いが、種類が増え、接種方法が複雑であり、戸惑う保護者もいる。また、インターネット等で情報を収集することができるため、予防接種の必要性について様々な捉え方をしている。追加接種の接種率が低下する傾向があるため、予防接種に対する正しい知識についての普及啓発と情報提供を充実させていく必要がある。</p>	<p>予防効果の高い標準的な接種期間に接種を受け、感染症を予防することができる。</p>
基本方針4-2 提供を行います	<p>■感染症の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 水痘や、髄膜炎予防のヒブと小児用肺炎球菌が定期予防接種に導入され、水痘の流行は小規模化しており、また髄膜炎によって入院する患児が減少している。 ジカ熱などの感染症が海外から持ち込まれる可能性が高まっている。 <p>【課題】</p> <p>感染症の症状の程度を発熱の有無で判断する等、認識が十分でない保護者がいる。感染症の動向に併せた正しい知識や予防・対応法等の普及啓発をする必要がある。</p>	<p>適切な情報を把握することで、日常生活の中での感染症予防に親子で取り組むことができる。</p>

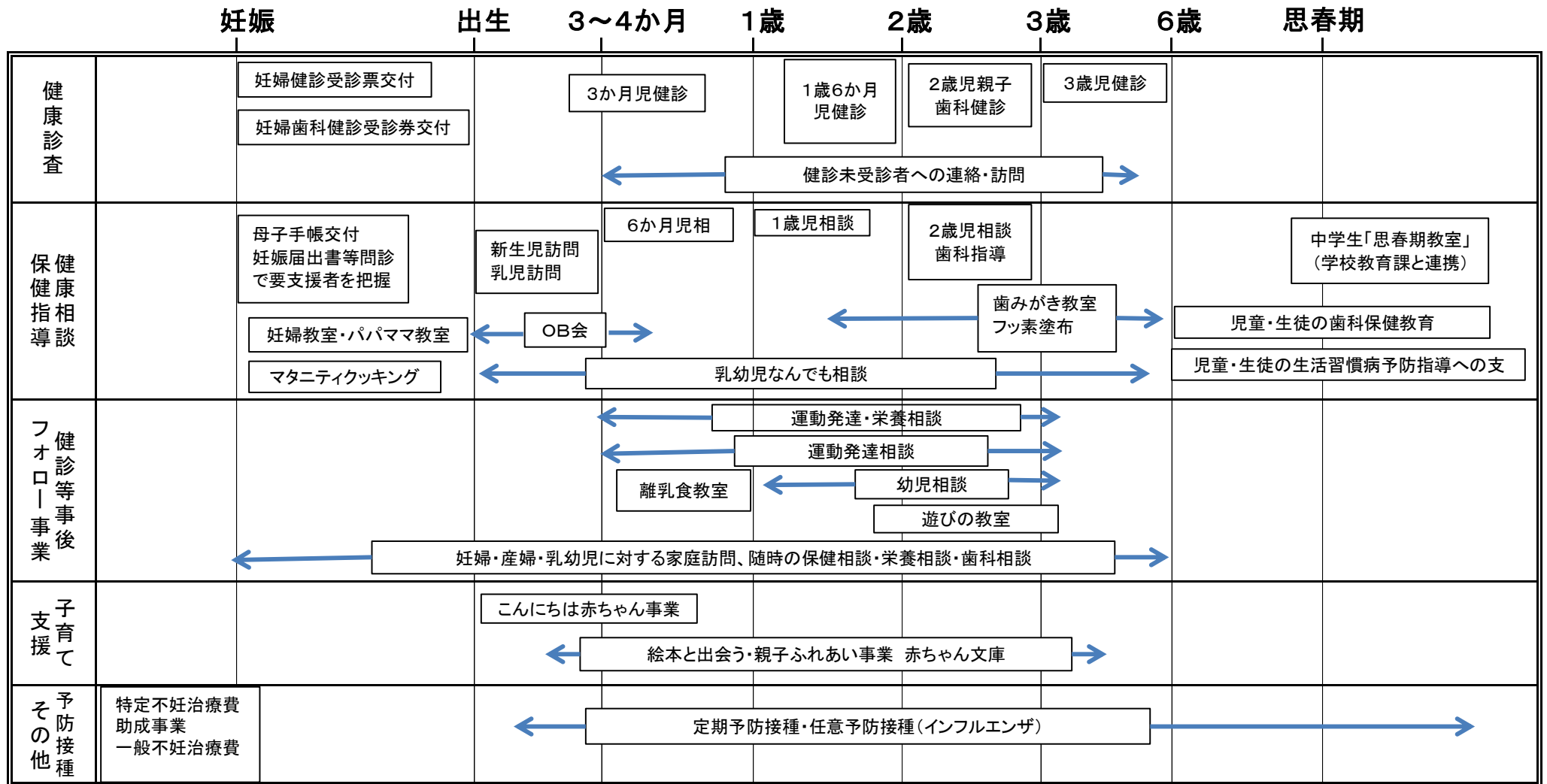
指標			具体的な取り組み
項目	現状	目標	
<p>1) 定期予防接種の接種率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ BCG 96.3% ・ 三種混合 (初回3回) 0.0% (初回追加) 6.8% ・ 4種混合 (初回3回) 92.6% (追加) 79.2% ・ ヒブ (初回) 94.6% (追加) 72.8% ・ 小児用肺炎球菌(初回) 93.4% (追加) 78.6% ・ 不活化ポリオ (初回3回) 4.8% (追加) 16.8% ・ 麻しん風しん(1期) 81.5% (2期) 89.3% ・ 水痘 69.2% ・ 日本脳炎 (1期) 74.5% (2期) 74.8% ・ 二種混合 78.0% ・ 子宮頸がん予防 0.1% ・ B型肝炎 — (平成28年10月導入) 90.0% 		<p>維持</p> <p>—</p> <p>90.0%</p> <p>90.0%</p> <p>90.0%</p> <p>90.0%</p> <p>90.0%</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>95.0%</p> <p>95.0%</p> <p>90.0%</p> <p>90.0%</p> <p>90.0%</p> <p>—</p> <p>90.0%</p>	<p>事業4-1-1 接種勧奨、指導、相談の実施</p> <p>①機会を捉えて勧奨・啓発を継続して行う。</p> <p>②接種対象期間が短期の予防接種については、定期的な個別勧奨を継続して行う。</p> <p>③個別相談を継続して実施する。</p> <p>④保護者の予防接種への理解を促すために担当者、幼稚園・保育園・小中学校(養護教諭)関係等との連携・情報共有を行う。</p> <p>事業4-1-2 受けやすい予防接種体制づくり</p> <p>①保護者へ予防接種についての情報提供を随時行う。</p> <p>②他市、国の予防接種状況の把握を行う。</p> <p>③医師会と随時個別接種についての相談・調整を行う。</p>
<p>1) 子育てマイページ登録者数 4,864人</p> <p>2) 子育て毎ページ(健康カレンダー★モバイル)や県感染症情報配信サービス等による感染症の情報提供</p>	<p>実施</p>	<p>維持</p> <p>継続実施</p>	<p>事業4-2-1 感染症予防に努める</p> <p>①感染症の発生状況・学級閉鎖等の状況を県リアルタイム感染情報システムや学校欠席情報システムを通じて把握を行う。</p> <p>②必要に応じて、感染症に関する初期症状、対応方法、感染状況等の情報提供を実施し、感染の拡大を防ぐ。</p> <p>③「市民安全情報ネットワーク」や県感染症サーベイランスをPRします。</p> <p>④啓発ポスターやチラシなどを随時配布、設置する。</p> <p>⑤幼稚園・保育園・小中学校(養護教諭)等への情報提供や情報の共有を図る。</p>

骨子5 歯と口腔の健康づくりの支援

	現状と課題	目指す姿(小目標)
基本 の方針 の歯の 健康 を 守り ます から 母子	<p>■妊婦歯科健診の状況、結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度から医療機関での個別健診となったため、柔軟に健診が受けられるようになり、集団健診時より受診率は向上している。平成27年度の妊婦歯科健診の受診率は36.9%である。 健診結果を見ると、歯肉に炎症のある妊婦が57.4%と半数を超える。[資料集 p 23-1-(11)] <p>【課題】</p> <p>妊婦の進行した歯周病が低出生体重児の出産や早産のリスクを高めることから、妊娠期から歯科保健の意識付けをしていくことが、生まれてくる子どもの健康のためにも大切である。口腔環境改善が必要な妊婦や、健診未受診であった妊婦に、受診勧奨や個別指導を実施する必要がある。</p>	<p>妊婦の口腔状態が母体や胎児に影響を与えることを理解し、自身と子どもの適切な口腔管理が日常的に実践できる。</p>
基本 の方針 の口腔 機能 の 獲得 を 支 援 し ま す の む し 歯 予 防 と	<p>■幼児期の歯科保健指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> 3歳児健診でむし歯のない子どもは、平成27年度93.3%となり、目標である90.0%を達成している。[資料集 p 23-1-(8)] 幼稚園、保育園全園を巡回し、はみがき教室と希望者へのフッ化物塗布を実施している。 「食事をよく噛んで食べない」と答えた3歳児の保護者は19.1%であった。[資料集 p 30-3-(2)-1-⑤] <p>【課題】</p> <p>3歳児でむし歯のない子どもの割合は増加しているため、現在実施している事業を継続し、健全な口腔機能の発達を支援する必要がある。</p> <p>障がいを持つ子どもは、口腔清掃や歯科治療が困難なケースが多く、むし歯予防や口腔機能の獲得に問題を抱えることが多いため、支援が必要である。</p>	<p>健全な乳歯列を保つことが健全な永久歯を導くこと、口腔機能の獲得につながることを理解し、はみがき習慣や適切な食生活を身につける。</p>
基本 の方針 の 歯 科 保 健 活 動 を 支 援 し ま す の 思 春 期 の	<p>■学校の歯科保健学習・指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校での歯科保健指導は依頼のある学校のみ行っている。平成27年度の健康医療課歯科衛生士による歯科保健指導実施校は小・中学校31校のうち8校であった。 12歳児の一人平均むし歯数は、平成27年度0.36本であり「健康なかつがわ21(第二次)」で目標である0.5本以下を達成している。[資料集 p 23-1-(9)] 歯肉に炎症のある中学生は28.5%いる。[資料集 p 23-1-(10)] <p>【課題】</p> <p>学校と連携し、歯科保健学習が継続して実施できる体制づくりが必要である。</p> <p>歯肉に炎症のある中学生が増加傾向にあるため、自分にあつた口腔清掃方法を習得させる必要がある。将来にむけた歯周病と全身との関係についての知識を学童期から普及させる必要がある。</p> <p>歯の生えかわりに伴う、成長段階に応じた咀嚼能力の向上等を支援する必要がある。</p>	<p>生涯にわたり歯、口腔の健康を維持できるよう、自分にあつた口腔清掃の方法を習得し、生活習慣と関連させた適切な歯科保健行動を身につける。</p>

指標			具体的な取り組み
項目	現状	目標	
1)妊婦歯科健診の受診率	36.9%	増加	<p>事業5-1-1 妊婦歯科健診の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ①妊婦歯科健診の継続実施。 ②妊婦歯科健診未受診者には受診勧奨する。 <p>事業5-1-2 妊娠中から継続した歯科保健指導の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ①妊婦教室で歯科保健指導を実施。 ②保護者の口腔状態や生活習慣が、子どものむし歯発生に影響するため、妊娠中から歯科保健指導を実施し、口腔衛生意識を高めてもらう。
1)3歳児健診でむし歯のない子どもの割合 2)「食事をよく噛んで食べない」と答えた3歳児の保護者の割合	93.3% 19.1%	維持 減少	<p>事業5-2-1 幼児期の歯科保健指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ①子どもの相談、健診事業での仕上げみがきの個別指導の徹底とフッ化物応用の推奨をする。 ②幼稚園、保育園でははみがき教室、フッ化物塗布を継続実施。 <p>事業5-2-2 むし歯発症リスクの高い子どもや障がい児への指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ①むし歯発症リスクの高い子どもは、食事指導が必要になるため、栄養士による個別指導と歯科指導を平行して実施する。 ②はみがき教室参加勧奨と医療機関の受診勧奨を行う。 ③障がいや疾患を持つ子どもには、関係機関と連携し歯科相談を実施する等、より柔軟な対応をする。 <p>事業5-2-3 口腔機能の発達支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ①健全な口腔機能が獲得できない場合のリスクを認識してもらい、 カ サンマル 噛ミング30(※)の推進と口腔習癖についての指導を実施する。 <p>※噛ミング30：歯科領域から食育推進のため、ひと口30回以上噛むこと。</p>
1)歯科保健学習に関わっている学校の数	8校	19校	<p>事業5-3-1 学校の歯科保健学習・指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ①養護教諭、学校歯科医と連携し、継続した歯科保健学習を実施できる体制をつくる。 ②噛ミング30を推進し、口腔機能の発達を支援する。

IV. 母子保健事業体系 ①



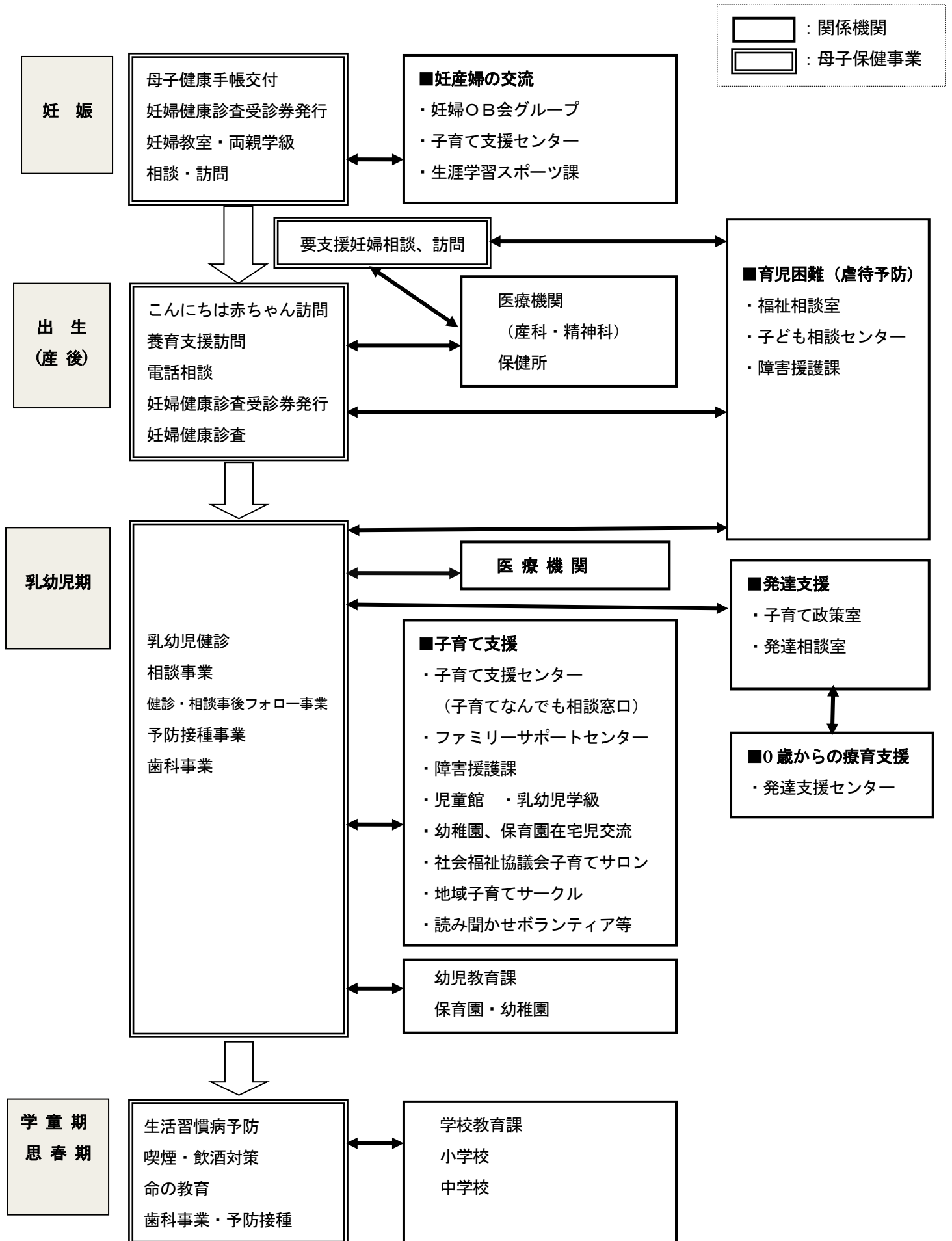
母子保健関係機関

- ・恵那医師会 ・中津川歯科医師会 ・恵那保健所 ・東濃こども相談センター
- ・主任児童委員 ・社会福祉協議会
- ・市教育委員会: 学校教育課、幼児教育課、子育て政策室、発達支援センター、子育て支援センター、幼稚園、保育園、小学校、中学校
- ・市関係部局: 福祉相談室、障害援護課、生涯学習課、図書館、農業振興課、定住推進課、政策推進課

中津川市母子保健関連会議

- ・母子保健連絡協議会 ・食育推進会議
- ・子育て政策会議 ・療育システムネットワーク会議 ・発達支援会議
- ・要保護児童、DV防止対策地域協議会
- ・命の教育推進会議 ・就園検討会 ・教育支援委員会

母子保健事業体系 ②



参 考 资 料

1. 中津川市母子保健統計

(1) 出生数・率

(平成26年)

	出生数 (人数)	出生率 (人口千対)	合計特殊出生率
全 国	#####	8.0	1.42
岐 阜 県	15,138	7.5	1.42
管 内	903	6.9	1.56
中津川市	580	7.4	1.62
恵 那 市	323	6.3	1.48

※合計特殊出生率＝15～49歳までの女性の
年齢別出生率を合計したもの
1人の女性が生涯に産む子どもの数を表す

(2) 出生時体重別出生数・率

(平成26年)

	2500g未満		2500g以上		不詳 人数
	人数	出生百対	人数	出生百対	
全 国	95,668	9.5	907,871	90.5	146
岐 阜 県	1,322	8.7	13,812	91.2	4
管 内	93	10.3	810	89.7	-
中津川市	58	10.0	522	90.0	-
恵 那 市	35	10.8	288	89.2	-

	1000g未満		1000～1500g未満		1500～2000g未満		2000～2500g未満	
	人数	出生百対	人数	出生百対	人数	出生百対	人数	出生百対
全 国	3,077	0.3	4,616	0.5	12,142	1.2	75,933	7.6
岐 阜 県	36	0.2	61	0.4	181	1.2	1,044	6.9
管 内	0	0.0	3	0.3	9	1.0	81	9.0
中津川市	0	0.0	3	0.5	4	0.7	51	8.8
恵 那 市	0	0.0	0	0.0	5	1.5	30	9.3

出典：人口動態調査

(3) 妊婦一般健康診査

	受診券 発行延 べ件数	平成25年度					受診券 発行延 べ件数	平成20年度				
		受診結果(延べ人数)						受診結果(延べ人数)				
		異常なし	異常あり					計	異常なし	異常あり		
要指導	要精密		要医療	計	要指導	要精密	要医療			計		
岐 阜 県	189,260	139,485	3,328	408	10,084	13,820	121,774	80,684	4,132	485	5,549	10,166
管 内	13,700	10,825	254	4	508	766	8,408	5,732	559	15	457	1,031
中津川市	8,450	6,842	184	0	165	349	5,363	3,712	400	10	269	679
恵 那 市	5,250	3,983	70	4	343	417	3,045	2,020	159	5	188	352

	平成25年度					平成20年度					
	受診結果(受診数百対)					受診結果(受診数百対)					
	異常なし	異常あり				計	異常なし	異常あり			
要指導		要精密	要医療	計	要指導			要精密	要医療	計	
	73.7	1.8	0.2	5.3	7.3	66.3	3.4	0.4	4.6	8.3	
	79.0	1.9	0.0	3.7	5.6	68.2	6.6	0.2	5.4	12.3	
	81.0	2.2	0.0	2.0	4.1	69.2	7.5	0.2	5.0	12.7	
	75.9	1.3	0.1	6.5	7.9	66.3	5.2	0.2	6.2	11.6	

出典：岐阜県母子保健事業報告 最新の集計

(4) 乳幼児健診実施状況

年度	3か月児			1歳6か月児			3歳児		
	対象者数 (人)	受診実人数 (人)	受診率 (%)	対象者数 (人)	受診実人数 (人)	受診率 (%)	対象者数 (人)	受診実人数 (人)	受診率 (%)
平成25年	632	630	99.7	668	640	95.8	696	686	98.6
平成26年	589	589	100.0	628	628	100.0	625	615	98.4
平成27年	636	629	98.9	630	615	97.6	650	640	98.5

出典：中津川市の保健より(平成27年度版)

(5) 平成27年度健診総合判定者内訳(実人数)

	異常なし (人)	要観察 (人)	要精密 (人)	要医療 (人)
3か月児	375	180	18	56
1歳6か月児	303	285	7	20
3歳児	410	193	6	31

出典:中津川市の保健より(平成27年度版)

(6) 平成27年度要精密検査者の受診率

	要精密 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)
3か月児	18	17	94.4
1歳6か月児	7	7	100.0
3歳児	6	6	100.0

出典:中津川市の保健より(平成27年度版)

(7) 3歳児尿検査未提出者数

対象者数	提出者数 (人)	割合 (%)
625	610	97.6

出典:中津川市の保健より(平成27年度版)

(8) 1歳6か月児、3歳児歯科健診の結果

年度	1歳6か月児				3歳児			
	対象者 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	むし菌のない者の 割合(%)	対象者 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	むし菌のない者の 割合(%)
平成25年	668	638	95.5	99.4	696	675	97.0	92.6
平成26年	628	627	99.8	99.8	625	614	98.2	87.1
平成27年	630	615	97.6	99.8	649	643	99.1	93.3

出典:中津川市の保健より(平成27年度版)

(9) 12歳児の1人平均むし菌数(本)

年度	1人平均むし菌数 (本)
平成25年	0.45
平成26年	0.36
平成27年	0.36

出典:保健第52集(中津川市学校保健会)

(10) 中学生の歯科健診の結果

年度	検査人数(人)	むし菌のある者 (人)	DMF歯数(本) (1人平均むし菌数)	むし菌のある者 の割合(%)	歯肉に炎症のある 者の割合(%)
平成25年	2,343	707	0.78	30.2	21.6
平成26年	2,323	540	0.58	23.2	28.4
平成27年	2,278	517	0.51	22.7	28.5

出典:保健第52集(中津川市学校保健会)

(11) 妊婦歯科健診の結果

年度	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)	むし菌のある者 の割合(%)	歯肉に炎症のある 者の割合(%)
平成25年	587	125	21.3	12.8	16.0
平成26年	630	236	37.5	22.9	52.9
平成27年	585	216	36.9	28.2	57.4

出典:中津川市の保健より(平成27年度版)

(12) 妊娠週数別母子健康手帳交付状況

年度	全交付数(件)	満11週以内(件)	満12週～19週(件)	満20週～27週(件)	満28週～分娩(件)
平成25年	587	480	104	1	2
平成26年	630	523	96	7	4
平成27年	585	535	41	7	2

出典: 中津川市の保健より(平成27年度版)

(13) 妊婦教室受講状況(1コース3回実施)

年度	妊婦(人)	受講者人数(人)		受講率(%)
平成25年	580	305	168	29.0
平成26年	622	305	152	24.4
平成27年	578	201	116	20.1

出典: 中津川市の保健より(平成27年度版)

(14) パパママ教室

年度	実施回数(回)	初産婦数(人)	受講者数(組)	受講率(%)
平成25年	7	282	93	33.0
平成26年	6	263	93	35.4
平成27年	6	241	98	40.7

出典: 中津川市の保健より(平成27年度版)

(15) 不妊治療費助成事業の状況

年度	助成数		妊娠成立数(件)
	実人数(人)	延人数(人)	
平成25年	45	66	22
平成26年	51	88	25
平成27年	51	79	20

出典: 中津川市の保健より(平成27年度版)

(16) こんにちは赤ちゃん事業

対象者	対象数(人)	訪問件数(件)	訪問実施率(%)
平成25年生まれ	635	610	96.1
平成26年生まれ	587	568	96.8
平成27年生まれ	632	612	96.8

出典: 中津川市の保健より(平成27年度版)

(17) 6か月児・1歳児・2歳児相談

年度	6か月児相談			1歳児相談			2歳児相談		
	該当者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)	該当者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)	該当者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)
平成25年	622	621	99.8	647	637	98.5	654	611	93.4
平成26年	600	583	97.2	663	643	97.0	672	630	93.8
平成27年	631	622	98.6	595	585	98.3	658	608	92.4

出典: 中津川市の保健より(平成27年度版)

(18) 乳幼児なんでも相談(各地区延べ人数)

年度	中津地区					坂下	川上	山口	福岡	蛭川	付知	加子母
	中津	坂本	落合	苗木	阿木							
平成25年	682	337	173	211	166	334	98	128	395	178	354	148
平成26年	726	312	121	188	170	183	88	112	290	156	336	142
平成27年	710	258	116	163	149	358	67	96	262	159	381	145

出典: 中津川市の保健より(平成27年度版)

(19) 定期予防接種実施状況

年度	ヒブ				小児肺炎球菌				4種混合(*)			
	初回接種		追加接種		初回接種		追加接種		初回接種		追加接種	
	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)
平成25年	2,060	74.6	679	62.1	2,105	76.2	604	63.9	1,704	67.1	72	15.5
平成26年	1,820	87.3	691	77.9	1,822	86.8	647	78.3	1,880	92.7	609	72.9
平成27年	1,846	94.6	554	72.8	1,848	93.4	552	78.6	1,833	92.6	599	79.2

年度	麻しん風しん混合				3種混合(*)				不活化ポリオ			
	第1期		第2期		初回		追加		初回接種		追加接種	
	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)
平成25年	667	97.0	695	92.7	76	3.3	615	65.2	539	17.6	770	64.4
平成26年	663	95.1	648	94.5	14	3.9	140	67.9	83	11.8	292	67.8
平成27年	561	81.5	583	89.3	0	0.0	13	6.8	18	4.8	30	16.8

年度	日本脳炎		2種混合(*)		ヒトパピローマウイルス (子宮頸がん予防)		BCG		水痘	
	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)
平成25年	2,824	83.7	674	84.6	227	18.4	534	82.5	-	-
平成26年	2,754	82.2	665	85.5	0	0.0	599	91.0	1,523	35.3
平成27年	2,257	74.5	602	78.0	3	0.1	601	96.3	1,326	69.2

出典：中津川市の保健より(平成27年度版)

《混合ワクチンの説明》

2種混合：ジフテリア・破傷風

3種混合：ジフテリア・百日せき・破傷風

4種混合：ジフテリア・百日せき・破傷風に不活化ポリオが加わったもの

(20) 任意予防接種実施状況

年度	インフルエンザ (中学生以下)	
	人数 (人)	接種率 (%)
平成25年	10,835	55.9
平成26年	10,492	56.2
平成27年	9,429	51.4

出典：中津川市の保健より(平成27年度版)

2. 妊婦に関するアンケート結果について

対象者：平成27年—平成27年度妊婦教室アンケートまとめ 参加者71人
平成22年—平成22年10月1日～12月31日までの母子手帳交付者155人
アンケートを郵送にて配布・回収 回収：85人(回収率 54.8%)

(1) 食生活について

1) 現在の食生活で心配や不安はありますか

年度	心配・不安はない		心配・不安がある		無回答	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
平成27年	45	63.4	14	19.7	12	16.9
平成22年	37	43.5	46	54.1	2	2.4

・食生活の心配や不安のある方は19.7%いる (下記 具体的な不安内容)

- ・体重がどんどん増えていくので、どんな物を食べていると満足感が出るのか
- ・体重が減ってから、もどりが悪い
- ・あまり量が食べれなくて、体重が増えにくい
- ・カルシウム、鉄、葉酸など、普段の生活で足りているか、バランスよく食べられているか心配
- ・貧血についてどうしたらよいかわからない
- ・貧血改善を第一にしていたら、体重増加が心配になってきた
- ・食べるのを控えたほうがいい食品が、雑誌やパンフレットごとに違って、どうしたらいいかわからない
- ・普段の食事内容で栄養が足りているのか自分では分からないので教えてほしい
- ・無性にチョコレートやアイスなど甘いものが食べたくなり、一日おき位に食べてしまう。それが尿糖+で表れたのか
- ・お腹がすくと気持ち悪くなる気がして、クッキーなどを食べてしまうが大丈夫か
- ・塩分どう気を付けたらいいか。食べてすぐ眠くなる

2) 朝食は食べますか

年度	あり		なし		未記入		合計	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
平成27年	71	100.0	0	0.0	0	0.0	71	100.0
平成22年	132	97.8	2	1.5	1	0.7	135	100.0

3) 朝食に野菜を摂取していますか

年度	摂取なし		1品		2品		3品以上		未記入		朝食欠食	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
平成27年	19	26.8	27	38.0	18	25.4	5	7.0	0	0.0	0	0.0
平成22年	40	29.6	53	39.3	7	22.2	7	5.2	3	2.2	2	1.5

・朝食なしの方は、平成22年度には1.5%だったが、平成27年度は0%であった

・朝食に野菜を含む料理の摂取なしの方は、平成22年度には29.6%であったが平成27年度は26.8%に下がった

4) 調理実習参加希望者数

	人数(人)	割合(%)
あり	39	54.9
なし	25	35.2
未回答	7	9.9

参加した理由(複数回答)

食事量、バランスがわからない	21
塩分などの味付けがわからない	14
料理が苦手、作れない	7
その他 レパートリーを増やしたい	1
料理が好き	1
妊婦友達を作りたい	1

・調理実習参加希望者は71人中39人(54.9%)であった。体験することでより具体的な指導を求めていることがわかる

(2) 生活リズムについて

1) 普段の起床時間に最も近いのはどれですか

年度	午前6時前		午前6時台		午前7時台		午前8時台		午前9時台		午前10時以降		不規則		無回答	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
平成27年	10	14.1	37	52.1	15	21.1	4	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	7.0
平成22年	9	10.6	47	55.2	19	22.4	3	3.5	2	2.4	0	0.0	2	2.4	3	3.5

2) 普段の就寝時間に最も近いのはどれですか

年度	午後8時前		午後8時台		午後9時台		午後10時台		午後11時台		深夜12時以降		不規則		無回答	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
平成27年	0	0.0	1	1.4	7	9.9	25	35.2	25	35.2	8	11.3	0	0.0	5	7.0
平成22年	1	1.2	2	2.4	12	14.1	19	22.4	30	35.2	14	16.5	3	3.5	4	4.7

3. 子育て環境に関するアンケートまとめ

対象者：平成28年4月～7月までの4ヶ月間で実施した乳幼児健診受診者からアンケートを回収

(1) アンケート集計

1) 育児について

① 育児に自信が持てないことがありますか

	全くない		あまりない		時々ある		よくある	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
3か月児	18	11.6	73	47.1	61	39.4	3	2.0
1.6歳児	18	10.2	69	39.0	84	47.5	6	3.5
3歳児	20	11.8	63	37.3	77	45.6	9	5.6
合計	56	11.2	205	40.9	222	44.3	18	3.7

② お母さんはゆったりとした気分でお子さんと過ごせる時間がありますか

	はい		いいえ		なんとも言えない	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
3か月児	131	82.9	4	2.5	23	14.6
1.6歳児	136	76.0	3	1.7	40	22.3
3歳児	99	59.6	5	3.0	62	37.3
合計	366	72.8	12	2.4	125	24.9

③ 数か月の間に、ご家庭で以下のことがありましたか

	しつけのし過ぎがあった		感情的に叩いた		乳幼児だけを家に残して外出した		感情的な言葉でどなった		子どもの口をふさいだ		いずれも該当しない		いずれかひとつでも回答した人	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
3か月児	0	0.0	1	0.7	4	2.8	6	4.2	0	0.0	134	93.7	9	6.3
1.6歳児	1	0.6	22	13.8	3	1.9	52	32.7	2	1.3	97	61.0	62	39.0
3歳児	9	5.6	26	16.3	2	1.3	66	41.3	-	-	85	53.1	75	46.9
合計	10	2.2	49	10.6	9	1.9	124	26.8	2	0.4	316	68.4	146	31.6

④ 赤ちゃんが、どうしても泣き止まない時などに、赤ちゃんの頭を前後にガクガクするほど激しく揺さぶることによって脳障害が起きること(乳幼児揺さぶられ症候群)を知っていますか

	はい		いいえ	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
3か月児	151	96.2	6	3.8
1.6歳児	171	96.6	6	3.4
3歳児	161	95.8	7	4.2
合計	483	96.2	19	3.8

⑤ 育て方や子どもとの接し方がわからず落ち込んでしまうことがありますか

	全くない		あまりない		時々ある		よくある	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
3か月児	45	30.0	63	42.0	42	28.0	0	0.0
1.6歳児	28	15.9	81	46.0	63	35.8	4	2.3
3歳児	31	18.3	69	40.8	61	36.1	8	5.0
合計	104	21.0	213	43.0	166	33.5	12	2.5

2) お子さんの日常生活について(1.6歳と3歳のみ回答)

対象: 平成27年度実施の5月・8月・11月・2月【歳児相談、1歳6か月健診、3歳児健診のたずね(問診)の集計口

集計数: 1歳児相談 152人
1歳6か月児健診 148人
3歳児健診 157人

①お子さんの起床時間に近いものを教えてください

	午前6時前		午前6時台		午前7時台		午前8時台		午前9時台		午前10時以降		不規則		無回答	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	6	4.1	78	52.7	54	36.5	6	4.1	2	1.4	1	0.7	0	0.0	1	7.1
3歳児	3	1.9	84	53.5	52	33.1	4	2.5	2	1.3	1	0.6	1	0.6	12	7.6
合計	9	3.0	162	53.1	106	34.8	10	3.3	4	1.3	2	0.7	1	0.3	13	4.3

②お子さんの就寝時間に近いものを教えてください

	午後8時前		午後8時台		午後9時台		午後10時台		午後11時台		深夜12時以降		不規則		無回答	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	5	3.4	77	52.0	55	37.2	9	6.1	0	0.0	1	0.7	0	0.0	1	0.7
3歳児	1	0.6	42	26.8	89	56.7	9	5.7	2	1.3	0	0.0	0	0.0	14	8.9
合計	6	2.0	119	39.0	144	47.2	18	5.9	2	0.7	1	0.3	0	0.0	15	4.9

・平成23年と比べ、早寝早起きの傾向になっており、起床時間が8時以降のお子さんの割合は5.6%である
・就寝時間においても早寝の傾向となっており、10時台以降のお子さんの割合は6.9%である

③お子さんの朝食のとり方について、もっともあてはまるものはどれですか

種類	ほぼ毎日食べる		週4～5日食べる		週2～3日食べる		ほとんど食べない		無回答	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	145	98.0	1	0.7	0	0.0	0	0.0	2	1.4
3歳児	145	92.4	10	6.4	0	0.0	1	0.6	1	0.6
合計	290	95.1	11	3.6	0	0.0	1	0.3	3	1.0

④子どもと親の欠食クロス集計

		子どもの朝食摂取状況		
		毎日食べる	食べないことがある	無回答
1.6歳児の親	毎日食べる	129	1	0
	食べないことがある	14	0	0
	無回答	2	0	2
3歳児の親	毎日食べる	130	3	1
	食べないことがある	13	7	0
	無回答	2	1	0

・朝食を食べないお子さん12人のうち、親も朝食を食べてない方は7人であった

⑤お子さんは一日に何時間テレビ・ビデオをみますか

種類	見ない(見せない)		1時間くらい		2時間くらい		3時間くらい		4時間くらい		それ以上		無回答	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	0	0.0	71	48.0	4	2.7	0	0.0	1	0.7	0	0.0	72	48.6
3歳児	3	1.9	50	31.8	44	28.0	14	8.9	2	1.3	9	5.7	35	22.3
合計	3	1.0	121	39.7	48	15.7	14	4.6	3	1.0	9	3.0	107	35.1

・テレビ・ビデオを見る時間が3時間以上のお子さんの割合は8.6%であった

(2) 健診時おたずね表集計

対象：平成27年度実施の1歳児相談、1歳6か月健診、3歳児健診のおたずね(問診)の集計

集計数：1歳児相談 152人
 1歳6か月児健診 148人
 3歳児健診 157人

1) 幼児の食事

①子どもの食事で困っていることはありますか

	ある		ない		未回答		合計	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1歳児	100	65.8	47	30.9	5	3.3	152	100.0
1.6歳児	106	71.6	42	28.4	0	0.0	148	100.0
3歳児	117	74.5	35	22.3	5	3.2	157	100.0

困っていることの内容

	1位	2位	3位	4位
1歳児	噛まない	遊び食べ	ムラ食い・散らかし食べ	
1.6歳児	噛まない	遊び食べ	ムラ食い	口から出す
3歳児	遊び食べ	ムラ食い・時間がかかる		野菜嫌い

- ・子どもの食事で困っていることがあると回答した割合は、平成23年と比較すると1歳児ではほぼ変わらず、3歳児と1歳6か月児では増えている。特に3歳児では54.4%から74.5%に増えている
- ・困っていることは、1歳児、1歳6か月児が「噛まない」が1位で、2位が「遊び食べ」、3歳児の1位も「遊び食べ」であった

②おやつについて

食事で困っていることがあると答えたお子さんの状況(1歳児152人中100人、1歳6か月児148人中106人、3歳児157人中117人)

1日のおやつの回数

	1~2回		3回以上		欲しがるとき		その他		未記入	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1歳児	68	68.0	1	1.0	8	8.0	19	19.0	4	4.0
1.6歳児	80	75.5	9	8.5	9	8.5	5	4.7	3	2.8
3歳児	97	82.9	7	6.0	3	2.6	6	5.1	4	3.4

食事記録を見て~おやつやジュースを食事の2時間以内に与えている

	昼前のみあり		夕食前のみあり		両方あり		2時間以上あいている		未記入	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	27	25.5	14	13.2	4	3.8	56	52.8	5	4.7
3歳児	20	17.1	9	7.7	5	4.3	75	64.1	8	6.8

- ・おやつの回数は、7~8割の方が1日1~2回の適切な回数である
- ・困っていると回答した方の食事記録をみると食事前2時間以内におやつがある割合が1歳6か月児42.5%、3歳児29.1%であったおやつを与える回数ではなく、与える時間が「遊び食べ」等に関係していることがわかる

③甘い飲み物について(1.6歳と3歳は本庁おたずねのみ)

甘い飲み物を良く飲むか

	はい		いいえ		未回答		合計	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1歳児	14	9.2	127	83.6	11	7.2	152	100.0
1.6歳児	55	37.2	93	62.8	0	0.0	148	100.0
3歳児	68	43.3	79	50.3	10	6.4	157	100.0

種類(複数回答可)について

	野菜ジュース	100%ジュース	清涼飲料水	スポーツ飲料	乳飲料
1歳児	39.6	25.0	8.3	6.3	20.8
1.6歳児	27.3	32.0	14.5	4.1	22.1
3歳児	17.2	27.8	16.6	6.5	32.0

量

	100ml以下		100ml~		200ml~		300ml~		量の記載なし		合計	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1歳児	3	12.5	15	62.5	2	8.3	0	0.0	4	16.7	24	100.0
1.6歳児	13	20.0	38	58.5	11	16.9	2	3.1	1	1.5	65	100.0
3歳児	6	5.8	31	30.1	31	30.1	4	3.9	31	30.1	103	100.0

- ・年齢が上がるに従って飲ませる割合が増えているが、飲む習慣が将来にわたって継続していかないために、味覚を形成する時期へのかかわりが重要である

④食事の食べ方

<1歳児>食事を自分で食べたがるか(手づかみ食べをするか)

はい		いいえ		未回答		合計	
人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
130	85.5	20	13.2	2	1.3	152	100.0

<1歳6か月児>自分で食事を食べるか

はい		いいえ		未回答		合計	
人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
125	84.5	15	10.1	8	5.4	148	100.0

<3歳児>箸を使って一人で食事をするか

はい		いいえ		未回答		合計	
人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
154	98.1	3	1.9	0	0.0	157	100.0

⑤食事を良く噛んで食べているか

	はい		いいえ		未回答		合計	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	116	78.4	32	21.6	0	0.0	148	100.0
3歳児	108	68.8	30	19.1	19	12.1	157	100.0

⑥母乳の有無

	あり		なし		合計	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1歳児	82	53.9	70	46.1	152	100.0
1.6歳児	30	20.3	116	78.4	148	100.0

⑦哺乳びんの使用

	あり		なし		未記入		合計	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	15	10.1	128	86.5	5	3.4	148	100.0

⑧牛乳を毎日飲ませるか

	はい		いいえ		未記入		合計	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	111	75.0	33	22.3	4	2.7	148	100.0
3歳児	138	87.9	15	9.6	4	2.5	157	100.0

・牛乳を毎日飲ませている割合を平成23年度と比較すると、1歳6か月児は59.7%から75.0%に、3歳児は75.1%から87.9%に増加

⑨朝食に野菜を摂取状況

	摂取あり		摂取なし		未記入		合計	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1歳児	97	63.8	44	28.9	11	7.2	152	100.0
1.6歳児	98	66.2	45	30.4	5	3.4	148	100.0
3歳児	82	52.2	61	38.9	14	8.9	157	100.0

・朝食の野菜の摂取なしは全年齢で減少した。年齢が上がるに従って、摂取なしが増える

4. 妊婦に関連する資料

(1) 妊婦の体格と妊娠中の体重管理について

対象：平成27年度 3か月児健診受診者の母親（有効回答519人）

1) 妊婦の非妊娠時体格別割合

体格指数	年度		平成24年		平成25年		平成26年		平成27年	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
低体重（18.5未満）	33	18.2	30	19.4	82	18.6	111	21.4		
標準（18.5以上25.0未満）	127	70.2	112	72.3	330	74.8	371	71.5		
肥満（25.0以上）	21	11.6	13	8.3	29	6.6	37	7.1		

2) 平成27年妊婦の非妊娠時体格・妊娠中の体重増加と低出生体重児出生の関係

非妊娠時の体格別体重増加の状況				低出生体重児の出産状況							
				妊娠中の体重増加別 低体重児の割合				低出生体重児 の割合		早産	正期産
非妊娠時 の体格	妊娠中の 体重増加	人数 (人)	割合 (%)	平成26年		平成27年		人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	人数 (人)
				人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)				
低体重	適正以下	23	20.7	7	25	5	21.7	11	9.9	1	4
	適正	52	46.9	2	6.9	5	9.6			2	3
	適正以上	36	32.4	1	4	1	2.8			1	0
標準	適正以下	45	12.1	11	19.3	6	13.3	27	7.3	3	3
	適正	216	58.2	10	5.6	16	7.4			5	11
	適正以上	110	29.7	5	5.3	5	4.5			1	4
肥満		37	-	4	13.8	4	10.8	4	10.8	1	3
合計		519	-	40	9.1	42	8.1	42	-	14	28

※適正体重とは、妊娠全期間を通した体重増加の目安。BMI(体格指数)が18.5未満(低体重)は9~12kg、18.5以上25.0未満(標準)は7~12kg、25.0以上(肥満)はおおよそ5kgとするが個別に対応

※双子は除く

(2) 妊娠期の高血圧・尿蛋白・尿糖の異常者と産後の管理

対象：平成26~27年度に実施した3ヶ月児健診受診者の母親。平成26年度601人、平成27年度592人
赤ちゃん訪問にて妊婦健診結果を母子健康手帳から把握

1) 妊娠高血圧症候群該当者

母の血圧140/90以上の者は平成26年度16人(2.7%)、平成27年度10人(1.6%)であった

①高血圧と児の出生体重

	平成26年度		平成27年度	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
低出生体重児	6	37.5	4	40.0
1500g未満	1	6.3	1	10.0
2000g~2500g未満	5	31.2	3	30.0

②高血圧の産後の管理状況

	平成26年度		平成27年度	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
産後改善が確認できた	11	68.8	7	70.0
内科治療継続	2	12.5	2	20.0
経過が不明	3	18.8	0	0.0
血圧測定や受診が できている	0	0	1	10.0

2) 尿蛋白の異常者

尿蛋白+以上の者は平成26年度5人(0.8%)、平成27年度3人(0.5%)であった

①尿蛋白と児の出生時体重

	平成26年度		平成27年度	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
低出生体重児	2	40	2	66.6
1500g未満	0	0	1	33.3
2000g~2500g未満	2	40	1	33.3

②尿蛋白+以上の産後の管理状況

	平成26年度		平成27年度	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
産後改善が確認できた	0	0	1	33.3
経過が不明	5	100.0	2	66.6

・尿蛋白陽性者のうち高血圧にも該当している者は平成26、27年度ともに2人で、各1人ずつが低出生体重児を出生

3) 糖尿病の妊婦と産後の管理状況

妊娠糖尿病の妊婦は平成26、27年度ともに1人で、全員の受診状況を把握

(3) 平成27年度出生児における母親の妊娠経過中の貧血状況について

対象者：平成28年9月現在登録住民データより、平成27年度出生児591人(双子4組あり)の母親587人の妊娠期間中Hb10.9g/dl以下 該当者を抽出

1) 妊娠週数とHb10.9g/dl以下の者の状況

妊娠期	人数(人)	割合(%)
0-15週	19	3.2
16-27週	122	20.6
28週以後	224	37.9

2) 各妊娠週数のHb10.9以下の者の出生児が何番目であったかの状況

妊娠期	総数	第1子		第2子		第3子	
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
0-15週	19	10	1.7	6	1.0	3	0.5
16-27週	122	45	7.6	46	7.8	35	5.9
28週以後	224	77	13.0	95	16.1	56	9.5

- ・妊娠期間中にHb10.9 g/dl以下となる妊婦は251人(妊婦 587人中 42.8%)であった
- ・妊娠期間中Hb10.9 g/dl以下となった妊婦から、低出生体重児(2500g未満)の出生は18人(年度内出生児の3.0%)であった
- ・妊娠初期から後期まで継続してHb10.9g/dl以下の妊婦は8人(251人中8人 3.2%)であった

(4) 平成27年度妊婦の喫煙状況

対象者：妊娠届出者のうち、喫煙に関する回答を得られた592人

1) 妊婦の喫煙

	喫煙あり		喫煙なし	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
初産婦	5	1.9	251	98.0
経産婦	11	3.2	325	96.7
合計	16	2.7	576	97.3

・喫煙なしの妊婦のうち、過去に吸っていたがやめた者は130人(22.0%)であった

2) 妊婦の同居家族の喫煙状況

	妊婦喫煙あり		妊婦喫煙なし		合計	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
同居家族の喫煙あり	11	68.8	249	43.2	260	43.9
夫の喫煙あり	10	62.5	218	37.8	228	38.5

- ・平成26年全国たばこ喫煙者率調査では成人男性の喫煙率は30.3%であった
- ・国のベースラインでは育児期間中の父親の喫煙率は41.5%であった

3) 妊婦の喫煙開始年齢

	妊娠届出時喫煙あり		吸っていたがやめた	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
~14歳	2	12.5	3	2.3
15~19歳	4	25.0	24	18.5
20~24歳	2	12.5	74	56.9
25歳~	0	0.0	1	0.8
不明	8	50.0	28	21.5
合計	16	100.0	130	100.0

- ・吸っていたがやめた妊婦130人のうち、67人(11.3%)が今回の妊娠を機にやめている
- ・産後の再喫煙率についての研究では、出産後3~4ヶ月の妊婦の再喫煙率約22%といわれている

4) 妊娠届出時喫煙ありの妊婦16人の状況

喫煙ありの妊婦で出産後の状況が把握できた9人のうち、2人(22.2%)は早産(37週未満)で出産しており、1人(11.1%)は低出生体重児であった。体重が3000g以上あった児は4人(44.4%)であった

(5) 岐阜県 母と子の健康サポート事業利用者状況

	平成27年度 対象者		平成26年度 対象者		平成25年度 対象者	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
対象者	12	46.2	17	77.3	37	97.4
児	14	53.8	5	22.7	1	2.6
計	26	100.0	22	100.0	38	100.0

平成27年度養育者の内訳：
育児不安2件、精神疾患7件、
その他疾患3件、養育環境2件

健やか親子21指標及び目標(抜粋)

* 中津川市実施 健やか親子21アンケート 平成28年4月～7月までの集計結果

* 恵那の公衆衛生、母子保健事業実施状況調査、岐阜県衛生年報、中津川市学校保健、中津川市の保健より把握

課題名	指標名	中津川市	国			
			ベースライン	中間評価(5年後)目標	最終評価(10年後)目標	ベースライン調査
切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策	妊産婦死亡率	0.0(出産10万対) (平成26年)	4.0(出産10万対) (平成24年)	減少	2.8	○人口動態統計
	全出生数中の低出生体重児の割合	低出生体重児 10.0% 極低出生体重児 0.5% (平成26年)	低出生体重児 9.6% 極低出生体重児 0.8% (平成24年)	減少	減少	○人口動態統計
	妊娠・出産について満足している者の割合	84.9%	63.7% (平成25年度)	70.0%	85.0%	○平成25年度厚生労働科学研究(山縣班)
	むし歯のない3歳児の割合	93.3% (平成27年度)	81% (平成24年度)	85.0%	90.0%	○母子保健課調査
	妊娠中の妊婦の喫煙率	0%	3.8% (平成25年度)	0%	0%	○平成25年度厚生労働科学研究(山縣班)
	育児期間中の両親の喫煙率	父親 38.6%	父親 41.5% (平成25年度)	30.0%	20.0%	○平成25年度厚生労働科学研究(山縣班)
		母親 5.1%	母親 8.1% (平成25年度)	6.0%	4.0%	
	妊娠中の妊婦の飲酒率	0.6%	4.3% (平成25年度)	0%	0%	○平成25年度厚生労働科学研究(山縣班)
	乳幼児健康診査の未受診率(重点課題②再掲)	3～5か月児:1.1% 1歳6か月児:2.4% 3歳児:1.5% (平成27年度)	3～5か月児:4.6% 1歳6か月児:5.6% 3歳児:8.1% (平成23年度)	3～5か月児:3.0% 1歳6か月児:4.0% 3歳児:6.0%	3～5か月児:2.0% 1歳6か月児:3.0% 3歳児:5.0%	○地域保健・健康増進事業報告
	小児救急電話相談(＃8000)を知っている親の割合	53.3% (平成27年度)	61.2% (平成26年度)	75.0%	90.0%	○平成26年度厚生労働科学研究(山縣班)
	子どものかかりつけ医(医師・歯科医師など)を持つ親の割合	<医師> 3・4か月児 65.2% 3歳児 88.0%	<医師> 3・4か月児 71.8% 3歳児 85.6% (平成26年度)	3・4か月児 80.0% 3歳児 90.0%	3・4か月児 85.0% 3歳児 95.0%	○平成26年度厚生労働科学研究(山縣班)
		<歯科医師> 3歳児 26.6%	<歯科医師> 3歳児 40.9% (平成26年度)	3歳児45.0%	3歳児50.0%	
	仕上げ磨きをする親の割合	80.9%	69.6% (平成26年度)	75.0%	80.0%	○平成26年度厚生労働科学研究(山縣班)
	周産期死亡率	出産千対 5.2 (平成26年)	出産千対 4.0 出生千対 2.7 (平成24年)	—	—	○人口動態統計
	新生児死亡率、乳児(1歳未満)死亡率(出生千対)	新生児死亡率 1.7	新生児死亡率 1.0	—	—	○人口動態統計
		乳児(1歳未満)死亡率 3.4 (平成26年)	乳児(1歳未満)死亡率 2.2 (平成24年)	—	—	
	幼児(1～4歳)死亡率(人口10万対)	0.0 (平成26年)	20.9 (平成24年)	—	—	○人口動態統計
	乳児のSIDS死亡率(出生10万対)	0.0 (平成26年)	13.9 (平成24年)	—	—	○人口動態統計
	妊娠11週以下での妊娠の届出率	91.5% (平成27年度)	90.8% (平成24年度)	—	—	○地域保健・健康増進事業報告
	出産後1か月時の母乳育児の割合	40.1%	47.5% (平成25年度)	—	—	○平成25年度厚生労働科学研究(山縣班)
1歳6か月までに四種混合(第1期初回3回目)、麻しん・風しんの予防接種を終了している者の割合	四種混合 96.5% 麻しん・風しん 90.2%	三種混合 94.7% 麻しん 87.1% (平成25年度)	—	—	○平成25年度厚生労働科学研究(山縣班)	

課題名	指標名	中津川市	国			
			ベースライン	中間評価 (5年後) 目標	最終評価 (10年後) 目標	ベースライン調査
学童期・思春期から成人期に向けた保健対策	歯肉に炎症がある十代の割合	28.5% (平成27年度中学生)	25.7% (平成23年)	22.9%	20.0%	○歯科疾患実態調査
子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり	この地域で子育てをしたいと思う親の割合	96.9%	91.1% (平成26年度)	93.0%	95.0%	○平成26年度厚生労働科学研究(山縣班)
	妊娠中、仕事を続けることに対して職場から配慮をされたと思う就労妊婦の割合	92.2%	91.0% (平成26年度)	93.0%	95.0%	○平成26年度厚生労働科学研究(山縣班)
	マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合	60.6%	52.3% (平成25年度)	60.0%	70.0%	○平成25年度厚生労働科学研究(山縣班)
	積極的に育児をしている父親の割合	66.3%	47.2% (平成25年度)	50.0%	55.0%	○平成25年度厚生労働科学研究(山縣班)
	乳幼児のいる家庭で、風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることができないよう工夫した家庭の割合	31.3%	38.2% (平成25年度)	—	—	○平成25年度厚生労働科学研究(山縣班)
育てにくさを感じる親に寄り添う支援	ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	3・4か月児 82.9% 1歳6か月児 76.0% 3歳児 59.6%	3・4か月児 79.7% 1歳6か月児 68.5% 3歳児 60.3% (平成25年度)	3・4か月児 81.0% 1歳6か月児 70.0% 3歳児 62.0%	3・4か月児 83.0% 1歳6か月児 71.5% 3歳児 64.0%	○平成25年度厚生労働科学研究(山縣班)
	育てにくさを感じたときに対処できる親の割合	62.0%	83.4% (平成26年度)	90.0%	95.0%	○平成26年度厚生労働科学研究(山縣班)
	子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合	88.1%	83.3% (平成26年度)	90.0%	95.0%	○平成26年度厚生労働科学研究(山縣班)
妊娠期待からの児童虐待防止対策	乳幼児健康診査の未受診率(基盤課題A再掲)	3～5か月児 1.1% 1歳6か月児 2.4% 3歳児 1.5% (平成27年度)	3～5か月児 4.6% 1歳6か月児 5.6% 3歳児 8.1% (平成23年度)	3～5か月児:3.0% 1歳6か月児:4.0% 3歳児:6.0%	3～5か月児:2.0% 1歳6か月児:3.0% 3歳児:5.0%	○地域保健・健康増進事業報告
	乳幼児揺さぶられ症候群(SBS)を知っている親の割合	96.2%	94.3% (平成26年度)	100%	—	○平成26年度厚生労働科学研究(山縣班)

※ 健やか親子21(第2次)

平成13年から開始された、母子の健康水準向上のための国が策定した国民運動計画。平成27年度(～平成36年度)から、健やか親子(第2次)が開始。安心して子どもを産み、健やかに育てることの基礎となる少子化対策としての意義に加え、少子化社会において、国民が健康で明るく元気に生活できる社会の実現を図るための国民の健康づくり運動(健康日本21)の一翼を担うもの。

すべての子どもが健やかに育つ社会に向かって、3つの基盤課題の設定と2つの重点課題あり。

- 基盤課題A : 切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策
- 基盤課題B : 学童・思春期から成人期に向けた保健対策
- 基盤課題C : 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり
- 重点課題① : 育てにくさを感じる親に寄り添う支援
- 重点課題② : 妊娠期からの児童虐待防止対策

中津川市母子保健連絡協議会委員名簿

(任期 : 平成29年1月26日～平成30年5月31日)

区 分	氏 名	団体等の名称	役 職
医療・保健団体の代表	◎中川 俊郎	一般社団法人恵那医師会 中津川医会	小児科医代表
	林 弥生	一般社団法人恵那医師会 中津川医会	産婦人科医代表
	渡邊 幹泰	一般社団法人中津川歯科 医師会	理 事
育児に関する市民 組織の代表	○安藤 広子	育児支援グループ (中津地区)	すくすくわくわくま あるいこころ 事務局長
	伊藤 彩	育児グループ (付知地区)	のびのび会 平成28年度会長
	三浦 啓子	中津川市健康推進委員会	理 事
教育、福祉団体の代表	三浦 博行	社会福祉法人 中津川市社会福祉協議会	事務局長
	小椋 匡敏	中津川市教育委員会	幼児教育課長
識見を有する者	三宅 晋平	岐阜県恵那保健所	健康増進課長

◎会長 ○副会長

(順不同・敬称略)